事例No.	1269
公表年度	R2
団体の属性	町村
団体名	宮崎県五ヶ瀬町

事例区分	地域活性化

タグ	・関係人口 ・教育・子育て ・移住定住

事例種類	関係人口

事例内容・タイトル

「県立中高一貫校・地元NPO 法人・都市部大学と住民の協働による
地域課題解決」事業

出典

令和２年度「関係人口創出・拡大事業」モデル事業調査報告書

(25) 宮崎県五ヶ瀬町

事業名：「県立中高一貫校・地元 NPO 法人・都市部大学と住民の協働による地域課題解決」事業

取組の概要

五ヶ瀬中等教育学校の生徒や卒業生等を対象に政策提言コンテストを実施し、関係人口創出・拡大のためのプロジェクト案を募集。さらに昨年度提案を含めた各プロジェクトについて、地域内外の学生・子ども等とともに実践活動を検討・実施。

主な成果

大学生 27 人、五ヶ瀬中等教育学校 80 人から 10 のプロジェクトが提案され、実践活動への参加を含めて他地域から 155 人が関与。さらにプロジェクトがきっかけとなって産品購入やふるさと納税につながることが期待される。

①事業の背景・目標

1) 関係人口によって解決・改善を図りたい地域課題

・五ヶ瀬町では、人口減少が急速に進み、集落における生活や産業の担い手が不足し、維持・存続が難しくなってきている。県立中高一貫校の卒業生や地方創生等の学部に在籍する大学生と継続的に関わりを持つことで、生活や産業の維持・存続につなげていく。

2) 概ね５年後の地域の理想の姿

・本町で行われる行事や共同作業等に卒業生や大学生らが参加し、町の活性化、新規事業創出、人口増に貢献している。
・町内で関係人口創出の取組が多数行われ、地域外の住民との交流が盛んになっている。

3) これまでに取り組んできた関係人口関連施策の実施状況・成果

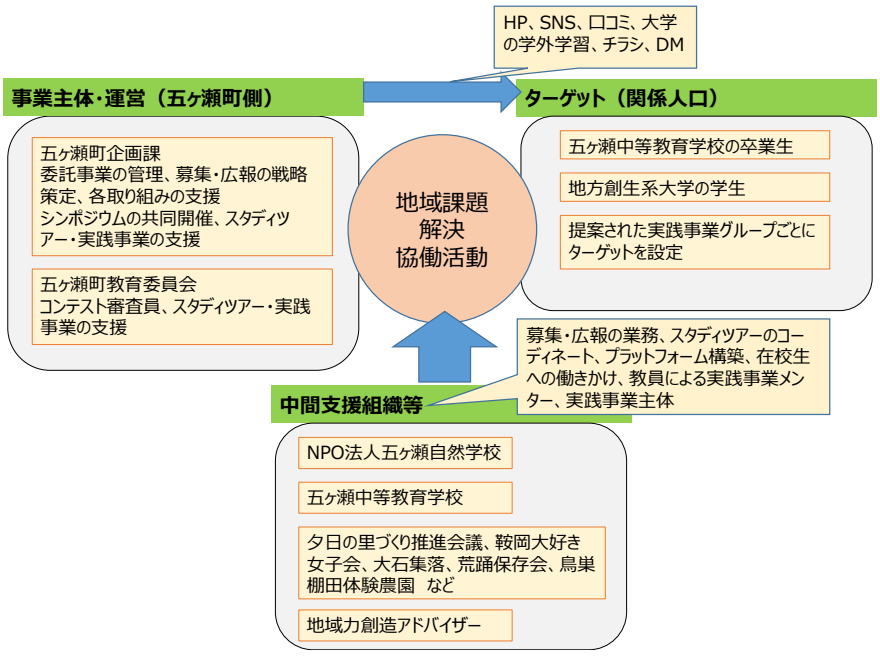
・ごかせファンクラブの会員拡大に向け、SNS を活用した情報発信と都市部での登録者獲得キャンペーンを開催し、登録者数が増加した。
・伝統芸能を披露するイベントを開催し、関心を持つ町外者が多数来場した。

4) 今年度事業の目標

目標	卒業生らが課題解決のための政策提案や実践活動に、積極的に参加している。政策提案の実践活動に多数の町外の関係人口や町内の住民が参加する。
成果指標	課題解決に関わる関係人口 （プロジェクト参加者により把握）
目標値 （基準値）	100 人（基準値：36 人（2019 年））

②事業実施体制

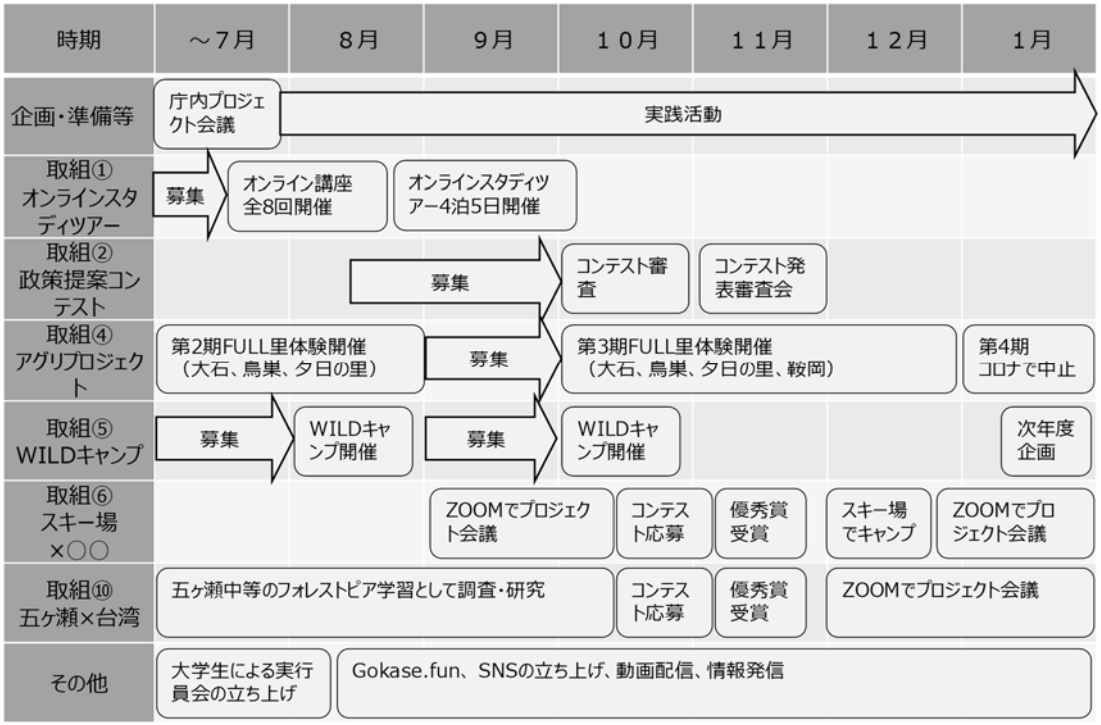
区分	団体・組織名称	役割
行政	五ヶ瀬町企画課	委託事業の管理、募集・広報の戦略策定、各取組の支援 シンポジウムの共同開催、スタディツアー・実践事業の支援
行政	五ヶ瀬町教育委員会	コンテスト審査員、スタディツアー・実践事業の支援
地元関連団体	夕日の里づくり推進会議	スタディツアー・実践事業の実行（オレンジ芋の栽培と農業体験）
地元関連団体	鞍岡大好き女子会	スタディツアー・実践事業の実行（和綿栽培と糸づくりワークショップ）
地元関連団体	大石集落	スタディツアー・実践事業の実行（雑穀栽培と料理教室）
地元関連団体	荒踊保存会	スタディツアー・実践事業の実行（わらじ作りワークショップ）
地元関連団体	鳥巣棚田体験農園	スタディツアー・実践事業の実行（トウモロコシ栽培と農業体験）
中間支援団体	NPO 法人五ヶ瀬自然学校	募集・広報の業務、スタディツアーのコーディネート、プラットフォーム構築
中間支援団体	五ヶ瀬中等教育学校	在校生への働きかけ、教員による実践事業メンター



③ターゲット設定とアプローチ方法

ターゲット層	アプローチ（情報発信）方法	期待する役割・関わり方
五ヶ瀬中等教育学校の卒業生	五ヶ瀬中等教育学校の卒業生名簿にダイレクトメール、SNS	スタディツアー・政策提案コンテストへの参加、実践事業への参画
地方創生系大学の学生	五ヶ瀬中等教育学校の卒業生からの口コミ、南山大学の学外学習、HP	スタディツアー・政策提案コンテストへの参加、実践事業への参画
実践活動参加者	HP、チラシ、SNS、YouTube 動画など活動ごとに行う	交流活動に継続的に参加、特産品などの購買、ふるさと納税利用など

④事業スケジュール







⑤取組の内容

【取組1　オンラインスタディツアー】

目的と概要

・政策提言コンテストのため、大学生を対象に、オンラインでの講義やミーティング等を開催した。

プログラム

6月29日～	８回の事前学習
８月31日	外部講師より、地域づくりや世界農業遺産等に関する講話 特産品を各家庭に送りオンライン交流会で一緒に食した
９月１日	町民、五ヶ瀬中等教育学校生徒とのポスターセッション
９月２日	グループに分かれて政策提言に向けたミーティング
９月３日	最終調整及び発表

参加者

・大学生(27人)、五ヶ瀬中等教育学校後期生(80人)



成果等

・関係人口創出拡大事業の実行委員（大学生）が増えた。
・政策提言コンテストに向けた良い提言が多く挙がった。

【取組2　五ヶ瀬町政策提言コンテスト】

目的と概要

・関係人口創出拡大の案を募るため、主に学生を対象に、五ヶ瀬町において効果的な独自の政策を考え、発表する機会を設けた。

開催場所

・五ヶ瀬中等教育学校体育館(一部参加者はオンライン)

プログラム

９月４日～ 10月18日	スタディツアーで発表した内容を元に定期ミーティングを実施しブラッシュを行う
10月19日	提言の発表を録画し、スライドと共に審査員会へ提出
11月２日～ 11月12日	審査結果の発表、上位５提案は審査会での発表を前提に最終調整
11月13日	上位５提案による発表会・審査会、質疑応答

参加者

・大学生(27人)、五ヶ瀬中等教育学校後期生（80人)、一般参加者（20人）

成果等

・関係人口創出拡大に貢献する可能性が大きい提案が集まり、上位５提案の実施を決定した。







【取組3　政策提案の実践活動】

昨年度の提案６案と今年度の提案５案について、実践活動を行った。

＜昨年度提案プロジェクト（一部）＞

わらじプロジェクト（2019 年コンテスト金賞）	荒踊りに用いるわらじの存続のため、わらじ作り体験等を通じて地域外の大学生(22 人)と、五ヶ瀬町の小学生（７人)、五ヶ瀬中等教育学校生徒(61 人)等が交流。	
アグリプロジェクト（2019 年コンテスト優秀賞）	耕作放棄地の復活、中山間地域における農業の存続のため、家族向けに農作物の栽培・収穫体験活動を実施したほか、トウモロコシのブランド化に向けて五ヶ瀬中等の生徒がラベルデザインを行った。	
WILD キャンプ（2019 年コンテスト銅賞）	自然体験を通して生きる力を育むイベントとして、五ヶ瀬の里キャンプ村において、小学校高学年を対象にキャンプを開催した。	

＜今年度提案プロジェクト＞

スキー場×〇〇プロジェクト	オフシーズン時の五ヶ瀬ハイランドスキー場の活用のため、地域外の大学生と新たな活用法を模索した。次年度の実施に向け、今年度は、スキー場キャンプのモニターツアーを実施し、天体観測に目を付け、星を満喫するキャンププランを作成した。
五ヶ瀬×人生ゲーム	若年層の五ヶ瀬町へのＵ・Ｉターンを目的とし、高校、大学生を対象に、五ヶ瀬町をマップとした人生ゲーム要素を取り入れた体験型ツアーを、地域外の大学生と検討した。次年度の開催に向け、今年度は、具体的なコースを決定し、実際に使用するアプリケーションの製作を進めた。
五ヶ瀬でスキーデビュー	スキー場を中心とした五ヶ瀬町の活性化のため、冬のツアープランの考案・検討を、地域外の大学生や五ヶ瀬中等の学生と行った。次年度の開催に向け、今年度は滑走の様子の VR カメラ撮影等を行った。
GCF(Government Cloud Funding)プロジェクト	ふるさと納税の活性化のため、新しい返礼品の作成・広報に向け、地域外の大学生や五ヶ瀬中等の学生と検討を行った。
五ヶ瀬×台湾プロジェクト	五ヶ瀬町と台湾の交流を図るため、次年度、台湾の学生を対象に募集をかけ、五ヶ瀬・台湾の特産品を用いた商品開発を行うことを目指し、今年度は、地域外の大学生や五ヶ瀬中等の学生と検討を行った。

⑥事業成果

1) 取組ごとの成果発現プロセス

取組名		取組①② スタディ,政策提言	取組④ アグリプロジェクト	取組③ WILDキャンプ
取組の結果（アウトプット）		8回の事前学習、4日間のスタディツアー(全てオンライン) 107人が参加	農作物を用いたイベントを5集落で13回実施 92人が参加	子どもたちを対象としたキャンプを2回開催 49人が参加
取組の成果（アウトカム）	関係の創出・深化に関する成果	オンラインにすることで事前学習については気軽に参加出たがスタディツアーは現地の雰囲気や見えない所が多く、政策を考える上で障害となった。	コロナ禍で集客が難しかったが、地域住民の協力は得られた。動画をYouTubeで配信。出来た作物を購入する関係人口も増加した。	コロナ禍で定員を減らして開催。テントではなく竹を組んだ基地なので密ならず、コロナ対策としても良い企画。人気があり継続しやすい。
	地域にもたらされた成果	五ヶ瀬中等卒業生が五ヶ瀬町に関わる機会を作れた。在校生の研究が実践により深化した。他地域の大学生の関わりが増えた。	増加する耕作放棄地を活用した地域住民の活動が増えた。九州内の関係人口が増加した。小学生の参加が得られた。	五ヶ瀬中等在校生がボランティアする仕組みができた。五ヶ瀬町の子どもたちと他の地域の子どもたちの交流ができた。
今年度事業の目標達成状況		【今年度事業による目標達成指標（指標の実績値】 10プロジェクトの他地域からの参画者+参加者：155人（前年36人、目標100人） （前年比430%、目標の155%）		

2) 本事業全体を通じた成果

■スタディツアー＆政策提案コンテスト

・五ヶ瀬中等の卒業生は、昨年度参加した学生からの口コミや新たに卒業した学生への声掛け、在校生は先生からの声掛け、また、先生を担当制にしたことで、スタディツアーは大学生 27 人、在学生 80 人の参加があり、政策提案についても 10 案の応募があった。

・大学生を中心としたオンラインによる実行委員会を立ち上げたことで、卒業生が在籍中の大学の友人を誘うなど、「関係人口プラットフォーム」が構築され、継続的な関係人口との関わりが図られるようになった。

・一般の参加者についても事前学習（地域の活動紹介、ゲストを招いた講座など）をオンラインで配信することで、多くの関係人口を創出できた。

■提案プロジェクトの実践活動

・昨年度の優秀提案６案と今年度の５案について実践活動を行った。コロナ禍で予定した活動ができなかった案もあったが、定員を減らす、住民の協力で行う、オンラインで動画を配信する、オンラインのイベントを模索するなど、新たな取組を行う事で事業化を図った。

■全体を通して

・コロナ禍になったことで、今までなかったオンラインによる事業展開を行う事で、一過性になりがちな交流人口を継続的な関わりを持つ関係人口にする手法が見えてきた。今年度優秀賞となったスキーデビューは五ヶ瀬中等教育学校の在校生の提案だが、旅マエ（オンライン）→旅ナカ（対面）

→旅アト（オンライン+手紙）を台湾の小学生をターゲットに実践するものであり、この考え方は他の取組にも参考になるものと感じた。今回のスタディツアー＆政策提案コンテストについては、残念ながら旅ナカもオンラインでの開催となってしまったが、参加者とは１年を通じてオンラインで繋がることができている。関係人口創出拡大を行う上で、オンラインの活用は非常に大きな役割を果たすことがわかった。

・地域住民には、オンラインによる事前学習の講師や、実践活動の受入集落として参画いただいた。どの集落も住民が主体となり、自主的に活動を深化させている。

・今年度のスタディツアー＆政策提案コンテストに参加した五ヶ瀬中等教育学校の卒業生（20 歳）が、12 月から本事業推進を目的に、中間支援組織である NPO 法人五ヶ瀬自然学校に就職した。本事業が、卒業生が五ヶ瀬町に戻り就職または起業するきっかけになることも期待している。

⑦事業を通じた課題・気づき等

1) 事業の目標設定と達成に関する課題・気づき

・目標設定は課題解決に関わる関係人口としていたため、プロジェクトに参加または参画した他の地域の人数を成果としたが、アグリプロジェクトによって生産された作物を購入した方、配信した YouTube 動画を複数回見ている方、この活動をきっかけに五ヶ瀬町にふるさと納税を行った方など、更なる事業効果があった。五ヶ瀬中等の在校生や先生もいずれ五ヶ瀬町を離れる存在であるが、本事業に関わることで、多くの住民との接点が生まれ、将来的に関係人口となってくれることが期待される。

2) 事業の実施体制に関する課題・気づき

・住民や大学生との関わりが多い NPO 法人五ヶ瀬自然学校と、宮崎県内の他の地域から入学した生徒、転勤してきた先生が勤務する五ヶ瀬中等教育学校を中間支援組織にしたことで、多くの事業展開が図れた。更に、大学生を中心としたオンラインによる実行委員会を組織したことで、関係人口をつなぐプラットフォームが構築され、事業がスムーズかつより深く展開できた。役員の合意形成についてもオンラインによる会議により円滑に行うことができた。五ヶ瀬町役場や五ヶ瀬中等教育学校のオンライン化が課題であったが、タブレット端末をレンタルすることである程度解消された。

3) ターゲット設定や募集・情報発信等に関する課題・気づき

・スタディツアー＆政策提案コンテストは、五ヶ瀬中等の在校生と卒業生、地方創生系大学の学生ということで、ターゲットが明確であり、今後もアプローチしやすい。実践活動については活動ごとに設定されるため、子どもから高齢者まで多くの方が対象となる。実際に WILD キャンプは小学生、オーガニックコットンは中・高年女性が参加している。メディアツールは Zoom、Slack、Google ドライブなどをフル活用している。情報発信はホームページ、SNS、YouTube で行っているが、広報がまだまだできておらず、視聴回数を増やす対策を施したい。

4) 各取組の実施・運営に関する課題・気づき

・五ヶ瀬中等卒業生の参画を得ることができたが、大学卒業後は関わることが難しくなることが予想される。卒業生が毎年新たに参画するよう在学中

から関わりを深め、関係性の継続に努めたい。また、地方創生系大学の学生に参加してもらうため、事業イメージをまとめた資料を作成し提案するなど、大学の関係者の方との連携を図りたい。実践活動については、2019年度の６提案、2020年度が５提案の11提案になり、全ての実践活動を継続することは難しい。それぞれの提案について、活動の終了も含めた方向性を検討しながら、実践活動を展開していく必要がある。

⑧今後の関係人口創出・拡大に向けた展望

1) 本事業の成果の今後の活用・発展方向について

・スタディツアー＆政策提案コンテストに参加した大学生は、可能な限り実行委員として参画してもらいたい。コロナ禍が落ち着き次第、五ヶ瀬町に招き、より深く事業推進を図る。実践活動の内、わらじプロジェクトはオンラインイベントでバーチャルな関係人口を獲得、アグリプロジェクトは来年度も５集落で展開し子どもを含む一般の参加者を獲得、WILDキャンプは年３回開催し小学生の参加者を獲得する。今年度の５提案については、本格的に実践活動を行い新たなターゲットの関係人口を獲得する。

2) 地域における関係人口への期待について

・オンラインを活用することで一過性になりがちな交流人口を継続的に関わりを持つ関係人口に育てる手法が見えてきた。コロナ禍だからこそ見えてきた視点であるが、ウィズコロナ、アフターコロナの状況であっても、更に有効に使える手法である。以前のようにインバウンド推進が積極的に行われる環境になった時、世界農業遺産高千穂郷・椎葉山地域の中でも、伝統的な日本の農村の暮らしが体験できるエリアとして売り出していきたい。

3) 今後の関係人口創出・拡大に向けた政策等について

・スタディツアー＆政策提案コンテストについては、今後も五ヶ瀬町が主体となり、NPO法人五ヶ瀬自然学校と五ヶ瀬中等教育学校を中間支援組織として継続する。優秀事例の実践活動については、提案内容によって実践活動チームを構成し、予算獲得も含め計画を練り、翌年度に実践活動を行う。年々実践活動が増えて行くことになるが、どの事業で実践活動を継続していくか方向性を判断しながら、関係人口創出につなげていく。

4) 地域における持続的な受入の体制・仕組みについて

・NPO法人五ヶ瀬自然学校と五ヶ瀬中等教育学校を今後も中間支援組織として位置づけ、事業を継続したい。
・今年度、大学生を中心としたオンラインによる実行委員会を組織したことで、関係人口をつなぐプラットフォームが構築され、事業がスムーズかつより深く展開できた。関係人口案内人も含めた関係人口との関わりの継続や情報発信に活かしたい。
・関係人口と地域の関わりについては、関係人口に対する町民の理解が深まるように、町が関係人口創出についての積極的な発信を行う。